

シリア——アメリカの宣伝インチキがいま公然と崩れる

【訳者注】ウソをつくなら大嘘をつけ、ウソを根拠にまたウソをつけ、そしてそれが暴露されても認めるな、というアメリカの不敵な方針が、とうとう崩れ出したという内容である。この博覧強記の論者は、細密に実証的に一々のウソを説明しながら、我々が大筋で知っていたことを、さらに納得させてくれる。彼は、こういう暴露が重なるにつれて、アメリカの主流新聞は、「彼らのプロパガンダの主張をどこまで維持できるのだろうか？」(p.4)と、引っ込みのつかなくなったメディアの心配をしてやっている。私自身もある小さな新聞社のトップに、「いずれすべてが明らかになったときに、どうするつもりですか？」と言ったことがある。この論者は、新聞は最大の努力をしているのだが、その結果は「中庸」表現だと言っている。それは一つの前身だが、もちろんこれは表現をごまかして済む問題ではない。それは究極的には、警告者が異口同音にいう「人類に対する犯罪」の問題である。

Moon of Alabama

September 30, 2016, Information Clearing House



オバマ政府、特に CIA と国務省は、困り果てているようだ。彼らはロシアを悪者にできることなら、どんなことでも叫び、東アレッポのアルカーイダ・テロリストを排除するのはジェノサイド(民族抹殺)だと主張している。その一方で、アメリカとサウジの爆撃と、彼らの交通遮断が直接、引き起こした、イエメンの Houthi (フーシ派=イスラム・シーア派) の飢餓については、全く沈黙している。

しかし、ようやく変化が起こって、大きなニュース報道が、アメリカが大事にするシリアの“穏健派反乱軍”は、アルカーイダそのものでなくとも、アルカーイダとグルであるというロシアの主張を、支持するようになった。

ロイターはこう報ずる (これはもっと長い物語の終わりの方ではあるが) ——

アレッポでは、「自由シリア軍」(FSA) という反乱軍が、以前のアルカーイダのシリア

分派を含む、イスラム主義集団の同盟軍 Jaish al-Fatah と一緒になって、作戦計画を立てている。

一方、近くの Hama 地方では、アメリカ製対戦車ミサイルで武装した、FSA 集団が、アルカーイダの息のかかった Jund al-Aqsa 集団と一緒に、大きな攻撃に参加している。

ウォールストリート・ジャーナルは、もっと直接的で、見出しに「シリアの反乱軍が、アルカーイダにつながる集団に接近する」と言っている――

<http://www.wsj.com/articles/syria-rebels-draw-closer-to-al-qaeda-linked-group-1475197943>

いくつかのシリア最大の反乱軍分派が、過激派と別れなければ空爆の攻撃目標になるというアメリカの警告にもかかわらず、アルカーイダ関連グループと、**同盟関係を強化している。・・・**

すでに「シリア征服フロント」とつながっている反乱軍のある者は、彼らの同盟関係を新たにすることで、その警告に応えた。しかし、以前 CIA に支援されていた、アレッポの最大分派の一つ、Nour al-Din al-Zinki のような他の者たちは、最近初めてこのフロントへの忠誠を明らかにした。

実際、アルカーイダは、CIA の Nour al-Din Zinki と Suqour al-Sham が、自分たちのジハード盟約に加わったと**公的に**発表した。

<https://twitter.com/Jakoben1789/status/780889641272635392>

ほんの少し前 8 月に、米国務省は、Zinki のメンバー数名が、アレッポ近くの病院からパレスチナの少年を誘拐し、ビデオカメラの前で彼の首を切った後で、Zinki を**弁護した**――

<http://news.antiwar.com/2016/08/04/state-dept-excuses-syria-rebel-group-over-terror-attacks/>

国務省のブリーフィングで、Mark Toner 報道官はこの事件を軽く見て、彼らが子供の首を切ったからといって、アメリカが Zinki 集団の武装を中止することはあり得ないと言った。

トナー報道官は、「一つや二つのこんな事件があったからといって、必ずしもそれがテロリスト集団だということにはならない」と主張した。

また最近、ドイツの元政治家でジャーナリストの Jürger Todenhöfer による、あるアルカーイダ司令官の英語によるインタビューがあり、これが**報道された**。この司令官は、アルヌス

ラ（アルカーイダ）は、アメリカの下部グループを通じて、TOW ミサイルを直接支給されていると言った。彼はこのようなグループについて、こう付け加えた——

<http://www.moonofalabama.org/2016/09/todenhöfer-interview-with-al-nusra-commander-the-americans-stand-on-our-side.html>

彼らはみんな我々の仲間だ。我々はすべてアルヌスラ・フロントなのだ。あるグループが創られ、“イスラム軍”とか“Fateh al-Sham”とかいった名前がつけられる。それぞれのグループが名前をもっているが、彼らの信念は一致している。一般に「アルヌスラ・フロント」で通っている。ある一人の人物が、たとえば 2,000 人の部下をもっている。そこで彼は、その中から新しいグループを創り出し、それを Ahrar al-Sham と呼ぶ。みんな兄弟であって、信念も考え方も目的も、アルヌスラ・フロントだ

もう一つ最近公表されたインタビューは、トルコとシリアで兵役についた、“グリーン・ベレ”の元兵士 Jack Murphy に対して行われたものである。“グリーン・ベレ”とは米軍の特殊部隊で、彼らは、アメリカの気に入らない政府に対して、土着のゲリラ集団を訓練して共に戦うスペシャリストである。インタビューされた兵士は、トルコで“穏健なシリア反乱軍”を訓練するように命令された。その一部がここに引用されている。

<https://sofrep.com/63764/us-special-forces-sabotage-white-house-policy-gone-disastrously-wrong-with-covert-ops-in-syria/>

「現場の者は誰も、この努力のこのようなミッションを信じていません」と、あるグリーン・ベレ兵士が、シリアの反乱軍を訓練し武装させる、アメリカの隠れた秘密計画について書いている。「彼らは、我々がただジハードの次の世代を訓練しているに過ぎないと考えています。だから彼らは命令をサボって“ばかめ、誰がそんなことをするか”と言っています。」…「ヌスラの連中には、アメリカ人に訓練を受けたなどと、言ってもらいたくないです」とグリーン・ベレは言った。

マーフィーは単刀直入にこう言っている——「FSA とアルヌスラを区別するのは不可能です、それらは事実上同じ組織なのだから。」すでに 2013 年には、FSA 司令官たちは、自分の部隊全体を引き連れて、アルヌスラに加わっていた。そうなっても FSA という名前はそのままだった。しかしそれはうわべだけのことで、CIA やサウジ情報部から兵器の支給を確保しておくための、世俗主義の見せかけだった。実は、FSA とは、アルカーイダに友好的なアルヌスラが面をかぶったものだった。…

ロシアが何かを言う時と、ロイター通信やウォールストリート・ジャーナルや、独立したドイツやアメリカの専門家が、事実だとして報道する時は、事情は全く別である。最初の場合

は“プーチンのウソ”として退けることができるが、他の場合は、反論するのがきわめて難しい。

ロシア人の言うことは正しい。アメリカは、停戦協定で合意した、“穏健な反乱軍”とアルカーイダの分離を行わなかった。なぜなら、“穏健派”とアルカーイダは同じものだからである。これは知らなかったことなどではない。2012年の米防衛情報分析が、そのことを言っている。CIAはもちろん、これをずっと知っていた。

<https://levantreport.com/2015/05/19/2012-defense-intelligence-agency-document-west-will-facilitate-rise-of-islamic-state-in-order-to-isolate-the-syrian-regime/>

事実が蓄積するにつれて、NYタイムズやWポストなどは、彼らのプロパガンダの主張を、どこまで維持できるのだろうか？ 彼らは最善を尽くしていると認めねばならない。不幸なことに、彼らの最善とは、中庸ということではかない。NYタイムズは、最近、ウラジミール・プーチンが、彼の混乱者としての役割を楽しんでいることを発見した。NYタイムズは、プーチンが何を「楽しんでいる」のか、どうしてわかるのだろうか？ この記者はプーチン本人に訊ねたわけではない。しかし彼は、プーチンの心のうちを洞察している何人かのよく知っている専門家に訊ねた。そして記者はそれが確かに事実だと確信した——彼らはプーチンがどう感じているかを正確に知っている。彼らとは、Richard Haass（外交問題評議会議長）、James R. Clapper, Jr.（国家情報部主任）、James B. Comey（FBI局長）、Robert Kagan（ネオコンの主唱者にしてクリントン後援者）である。“専門家”の中の一部だ。

http://www.nytimes.com/2016/09/30/world/europe/for-veterans-of-the-cold-war-a-hostile-russia-feels-familiar.html?_r=0

この話に、山ほどある“ロシアは無差別に東アレッポの市民/病院/パン屋を爆撃している”といった話を重ねてみるとよい。しかしそれは決して“反乱軍”には命中しない——なぜなら、そんなことは何も起こっていないからだ。NYタイムズのその種のある最近の記事の末尾に、14の「声」が引用してある。8つは“ホワイトヘルメット”機関と関連をもつ、いろんなプロパガンディストのものであり、4つは“西側”外交官のもの、1つはシリア政府高官のもの、もう1つはロシア報道官のものだ。ロシア軍の意見はなく、西アレッポからの声は一つも引用されていない——この地域に、アレッポのほとんどの住民が、政府の保護と、毎日の“反乱軍”によるロケット砲撃のもとに生活しているにもかかわらず。

<http://www.nytimes.com/2016/09/27/world/middleeast/aleppo-syria.html>

しかし、悪魔のようなロシア人どもについて我々の聞くすべての物語は、真実にきまっている！ 7歳のBana Alabedでさえ、今、東アレッポから、ロシアの無差別攻撃下にある彼女の悲劇的運命をツイッターで訴えている。しかもそれは完全な英語で、すぐれたWiFiと

インターネットを利用して、それは彼女の多くの“ホワイトヘルメット”による写真添付と、彼女のビデオが証明している。しかし都市全体が荒廃し瓦礫となり、彼女の家の真ん前でリン爆弾が爆発したと彼女は言っている。

<https://twitter.com/AlabedBana>

しかしバーナは、非常に責任感ある小さな淑女である！——

<https://twitter.com/AlabedBana/status/781597903924125697>

Bana Alabed@AlabedBana

親愛なる世界の皆さん、ロシアとアサドにアレッポのホロコーストを許すより、第3次大戦を始めた方がましです。

1:53 PM – 29 Sep 2016

ここで“おかあさん”が、“独占記事”用にデイリー・メールに電話をかけてきて、これは全部本当だと保証した。ザ・テレグラフは、スライドショーに、悲しい音楽とともに彼女を登場させ、ガーディアンも彼女を後押ししている。これはもう一人の“ダマスカスの陽気な少女”（ニセモノ）で、メディアの恥さらしである。2011年にはガーディアンも、あのニセモノに加担した。もしこの7歳の少女が、東アレッポにいて、デンマークかイギリスにいたのでないとしたら、私は火星上にいるに違いない。どんな正常な読者も、このようなスタントを本気で受け取りはしないだろう。どのようなPR会社が、このようなお粗末なペテンを引き受けたのだろうか？

<http://www.dailymail.co.uk/news/article-3809920/Please-stop-bombing-Putin-Assad-Seven-year-old-girl-sets-live-Twitter-feed-ruins-Aleppo-faces-propaganda-claims-social-media.html>

https://en.wikipedia.org/wiki/A_Gay_Girl_In_Damascus

“穏健な反乱軍”という幻想と同じく、このようなお話や、“ホワイトヘルメット”宣伝機関がばらまくナンセンスは、馬脚をあらわし始めている。UAE（アラブ首長国連邦）のNational という国際新聞は、最近、ホワイトヘルメットを創った人物、湾岸の防衛利益のために働いている“元”英軍エージェントの周りに、少し穴を掘った。これは慈善行為ではなさそうだ。これは、詳細はまだ明らかでないとはいえ、注目すべき報道である——大きな新聞が、この機関にとってありがたくない態度を示したのは、これが初めてだからである。

<http://www.thenational.ae/arts-life/newsmaker-the-white-helmets>

オバマ政府の“穏健な反乱軍”についてのウソは、現在、主要メディアでおおっぴらに論じられている。#HolocaustAleppoのプロパガンダは笑いものになりつつある。

ロシアはシリアで、その掛け金を上乗せしつつある。ロシアのSU-24, SU-25, それにSU-34 ジェット機が追加されつつある。6,000 近いロシア兵が地上に配備されている。CIA のアルカーイダ“反乱軍”が、東アレッポで敗退しつつあり、他の場所でも王手をかけられている。彼らは爆撃によって粉砕されるだろう。若干の新しいBM-21 多機能ミサイル発射台と、より重い対空砲が彼らに与えられている。しかしそれらは、致命的に出血している傷口へのバンドエイドにすぎない。MANPAD できえ、この状況を少しでも変えはしないだろう。

アメリカ、サウジ、そして特にブレナンのCIAはこの戦いに敗れた。オバマとケリーはそれを認めるだろうか？ それとも彼らは、もう一度、一か八かの長距離シュートを放って、何かキチガイじみたことをやるだろうか？